

楓之典君乳母草子外伝

続々猫様詣まうて——自性院——

中條 恵子 陸自85

都人もすなる寺社参りを乳母も三度みたびせむとてかちより詣けり

年の瀬、お江戸新宿へ東上の折、小春日和に浮かれて猫寺・猫地藏と名高い自性院様を参拝いたしました。



西光山 無量寺 自性院

所在地：〒161-0031 東京都新宿区西落合1

○御由緒

真言宗の開祖弘法大師空海上人様は、御年41歳の弘仁5（814）年、東国巡錫の際に相模国江ノ島龍窟に

て修行し弁財天像を彫り、弘仁11（820）年には、修善寺を経て下野国日光山に登られ、さらに諸国を巡りて修法を行い、諸仏を刻んでご供養されたそうでございます。

自性院の草創も平安初期の弘仁年間におこり、弘法大師様が観音像を奉安されたことに始まると伝えられます。また、葛大納言経信が東下りして身を隠し、自性院にて観音・阿弥陀様を信仰したとも云われています。ご本尊・阿弥陀如来像が修復された記録が残り、板碑（秘仏）の銘文には私年号「福德二年」(延徳2(1490))年と確認できるとのこと。室町後期には寺格整備が進み、明治の廃仏毀釈や東京大空襲による伽藍焼失などを経ながらも法灯は守られて今日に至ります。

○宗派

真言宗豊山派

○ご本尊

来迎阿弥陀三尊像（観音菩薩、阿弥陀如来、勢至菩薩）

○太田道灌殿を猫招き

文明9（1477）年4月、江戸城主太田道灌と石神井を地盤とする

豊島一族との一大決戦が中野区哲学堂裏にて行われました。「江古田が原・沼袋の戦い」にございます。

江戸城を出て神田川・妙正寺川を遡った道灌軍と石神井城と練馬城から出撃した豊島兄弟が激突、厳しい初戦の後に道灌は夜道で迷ってしまいます。その時、黒猫が現れて盛んに手招きし、導かれたのが自性院でした。草庵で一夜を明かした道灌は態勢を立て直して反撃し、敵を石神井城に追いつめて勝利を収めたのでございます。

戦いの後、道灌はこの黒猫を江戸城に連れ帰って大切に養育し、死後には丁重に葬り猫地藏を自性院に奉納して冥福を祈りました。今では年に一度節分にしか開陳されないこの秘仏が、招き猫の元祖の一つと言われています。

○猫面地藏

自性院には、もうひとつ猫面のお蔵様がお祀りされています。

江戸時代の明和4（1767）年4月、お江戸で貞女と名高い一人の女性が亡くなりました。豪商・加賀屋に生まれ、金坂八郎治の妻となつた女性です。この女性の冥福を祈る

とともに貞女の誉を後世の鑑と伝えるために、牛込神楽坂の鮎屋弥平と申す者が猫面の地藏像を石に刻んで奉納したということです。猫面地藏と呼ばれ、こちらも秘仏となっております。

この二体の猫地藏尊が評判になり、貞女にあやかりたい、また、地藏尊のご利益にあずかりたいと願うお江戸の衆が訪れ、自性院は大変な賑わいを見せたということです。



○地藏堂など

二体の猫地藏は、緑の屋根の地藏堂に安置されています。お堂の中には沢山の招き猫なども奉納されていて、節分には拝観することができます。そうでございます。

境内では、石碑の猫塚を見ることもできません。こちらは三味線になった猫の供養のためとか：

また、寺院の北側の門近くには貫禄たっぷりな招き猫も鎮座され、住宅街の一角にお江戸から続く静かな時が流れておりました。



○ご挨拶

心に移りゆく猫様事を書き付くれば、拾伍回、ふたとせ武歳半と相成りました。皆々様の招福をご祈念奉り、此度もちまして乳母草紙とぢめといたしまししょう。

○楓之典君の呟き

春の夜の夢の浮橋とだえして
峰に別るる横雲の空